

物語 子ウサギと太陽さんとお月様

とても暑いよく晴れた日に、子ウサギが友達と一緒に野原に出かけたよ。

蝶々さんがひらひら飛んでいたり、

ハナムグリが花にとまって花粉のベッドで居眠りしていたり、

楽しいものがいっぱい、

子ウサギたちは野原を駆け回って遊んでいました。

そのとき、一匹の子ウサギが野原に空いていた深い穴に落ちてしまいました。

子ウサギは穴から外に出ようとしたのですが穴が深くて出られません。

一緒に遊んでいた友達たちの声は遠くの方に行ってしまう、寂しく悲しくなってきました。

穴の上からは熱い太陽の日差しが入ってきます。

暑くて体が疲れてきました。

「誰か助けて」

子ウサギがそう声をかけると、

太陽さんが心配そうに声を返してくれました。

「子ウサギ、子ウサギ、どうしたんだい」

子ウサギが弱弱しくそれに応えました。

「深い穴に落ちてしまって、出られなくなったんです」

「それはいけない。私が助けを呼んできてやろう。」

「その間、私の光が熱いだろうから、影のところに隠れているんだよ」

そう言って、太陽さんは大きな声で助けを呼んでくれました。

すると、野原の周りにいた動物たちがやってきて、みんなで協力して子ウサギを穴から助け出しました。

子ウサギはそのあと無事元気になって、また友達と一緒に野原で遊びたいと思いました。

けれど、またあの穴に落ちて怖い思いをするのが怖くて野原に行けないでいました。

ある夜、お月様にそのことを子ウサギが話してみると、それに応えてお月様は言いました。

「そうかい、それはそれは怖い思いをしたね。」

「では、私が子供たちが穴に落ちないようにいつでも見守っていることにしよう。」

「私は空の上から見ているから穴がよく見えるんだよ。」

「もし落ちそうになったら、私が声をかけてあげるから、安心して野原で遊んだらいいよ」

お月様のおかげで子ウサギは安心して野原で友達とたくさん遊ぶことができました。

そして、太陽さんとお月様、そして大人の動物たちの助けを思い出すと子ウサギは心が温かくなるのでした。

おしまい

